

ほやほや

Fukui Red Cross Hospital



日本赤十字社 福井赤十字病院
Japanese Red Cross Society

福井赤十字病院広報誌

vol.036

平成23年10月発行

- 多焦点眼内レンズ
- がん化学療法
- 夏休み赤十字お仕事体験
- 秋のレシピ

東日本大震災

救護班活動レポート Vol.3

人間を救うのは、
人間だ。

Together for humanity

「がんばろう！日本！」東日本大震災 福井赤十字病院 救護班 活動報告レポート

Vol.3

「13班の活動」

地震発生から約4カ月間の救護班活動は、第13班が最終となりました。

診療で目立ったのは、高齢者の内科的慢性疾患（高血圧、ぜんそくなど）と整形外科的疾患（関節水腫、関節痛）。こころのケアの必要性もさらに大きくなっていました。スタッフによれば、「被災状況が軽いか、津波現場にいなかったことで罪悪感を持っている方もいて、いかなる人もそれぞれの心の傷を抱えていることがわかりました」とのこと。個々の辛さや悲しさに寄り添い、傾聴する大切さを実感しました。赤十字の統一された赤い救護服は、どこにいてもホットな赤であり、ホットとする赤。それが被災された方々に少しでも伝わり、心身を癒すことができたのではないかと思います。

石巻赤十字病院へ多くの スタッフを派遣、活動。

震災発生から約2カ月後には、さまざまな支援要員の派遣も始まりました。当院からは石巻赤十字病院へさまざまな職種のスタッフを何回にもわけて派遣しました（左記参照）。病院業務（ER、看護、薬剤、病棟看護）やこころのケアなど、石巻赤十字病院におられる被災者の方を全面的のサポートしました。そんな中で、「来てくれるだけでいい。この現状をわかってもらえるだけで……」という被災者の方の声や、石巻赤十字病院職員を労うフレッシュルーム活動（医療リンパマッサージ）などを通じ、自分たちが彼らにとってかけがえのない存在であることを再認識することができました。そしてさらに、「赤十字」という組織力、チーム力の素晴らしさも実感しました。

第13班

7月5日（火）8時出勤
石巻市雄勝地区を巡回診療
7月10日（日）帰院



「日が経つごとに、心の辛さが深まることもあったと実感しました」（島崎看護師）



長期間にわたる避難所生活で、寄り添いを訴える方も増加しています

「常に“これでいいの？”を考え、活動の方向性を何度も話し合いました」（松田看護係長）



榎本医師（班長）、西川看護師長、島崎看護師、相模看護師、若松主事が出勤しました



「無理に話を聞くのではなく、いつもここにいますよ」と寄り添う存在であるよう心がけました」（和田看護係長）



情報共有や連帯感の向上、精神的な支えとなるコーディネートが心げました



避難所で活動するボランティアの方のケアも行いました

院長視察！



当院救護班が救護所活動や巡回診療を行った石巻市雄勝地区や石巻港を中心とする臨海部は、被害が甚大だった所です。瓦礫や動かなくなった多くの自動車は積み上げられ、地盤沈下した道路は冠水し、海水がひかずに通行できないまま……。復旧作業の一方で、手付かずの所もたくさんあるのです。復旧はまだまだこれからです。石巻赤十字病院の飯沼院長や石巻医療社会事業部長（外科部長）からは、「石巻の医療復興を目指し、新たな挑戦が続きます！」との決意も聞きました。

今回の視察で強く感じたことは、被災地を孤立させずに復興を見守り続け、できる支援を続けていく必要性です。福井赤十字病院はこれからも石巻の復興を見守り続け、支援していくつもりです。

復興へのメッセージを記しました



石巻赤十字病院飯沼院長とともに



雄心苑の診療所にて説明を受けている様子

石巻赤十字病院 支援要員

として活動したスタッフ

ER業務

- 5/4~9 西郡知代（看護師）
- 5/14~24 朝田和枝（看護師）
- 6/23~7/5 原田幸枝（看護師）

看護部業務

- 5/4~9 宮地牧子（看護師）
金谷秀人（看護師）
- 5/9~14 中田明日香（看護師）

薬剤業務

- 5/4~9 坂口純子（薬剤師）
- 5/30~6/7 安藤和也（薬剤師）

こころのケア 要員

として活動した
スタッフ

- 5/29~6/3 松田ゆう子（看護師）
- 6/14~19 和田幸子（看護師）
鈴木敏弘（事務職員）
- 6/30~7/5 寺本佳子（看護師）
- 7/16~21 山内ますみ（看護師）
毛利知子（看護師）
- 8/4~8 辻香織（看護師）
高嶋京子（看護師）



眼鏡なしの生活が現実に! 乱視矯正眼内レンズと 多焦点眼内レンズ

視力の低下や衰えからくる、
不自由さと不安を解消する
眼内レンズを紹介します。



眼科部長 小堀 朗

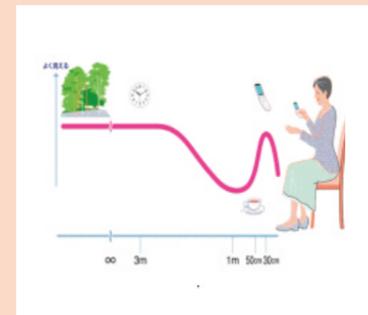


みなさんは眼鏡店に行つてどんな眼鏡を買いますか?遠用、近用、乱視用、遠近両用と目的別に購入されると思います。しかし、今まで白内障手術時に用いられる眼内レンズ(10L)には単焦点10Lしかありませんでした。単焦点10Lでは一カ所にしか焦点が合いません。つまり遠方が近方しか見え、それ以外は眼鏡が必要になっていました。

最近、眼内レンズにも乱視用10L、多焦点10Lというものが発売されました。乱視用10Lはレンズの中に乱視打ち消すためのレンズを組み込んでおり中等度の乱視まで矯正することができま



多焦点IOL
実生活における距離と見え方のイメージ

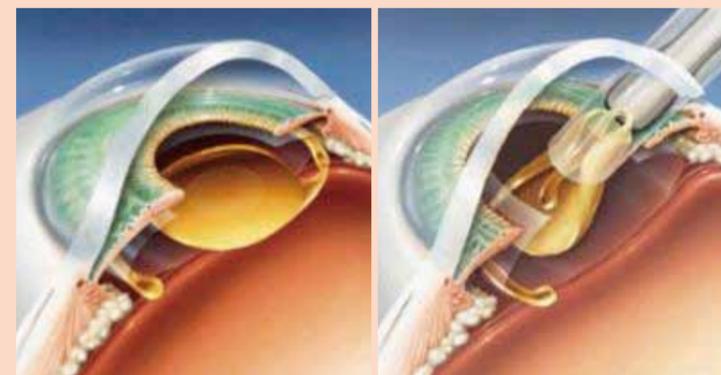


す。この10Lは単焦点の10Lと同様に保険適応になります。一方、多焦点10Lは遠用レンズの中心に近用レンズを組み込んだ遠近両用の10Lです。この10Lの利点はなんと言っても眼鏡が必要なくなることです。ただ、中間距離は少し見えにくくなりますのでそこだけ眼鏡が必要になるかもしれません。欠点は見え方の鮮明さがやや低下することです。ですから、あらゆる眼疾患が無く、十分な視機能があることが条件になります。当院では、平成23年7

乱視矯正10L、多焦点10Lを扱っているのはまだごく一部の施設のみです。精度の高い検査機器、手術機器が必要になるからです。詳しいことをお聞きになりたい方は福井赤十字病院眼科にご相談ください。



手術では、このようなレンズを眼内に挿入します



命の大切さと赤十字のことを学ぶ、 「夏休み!赤十字お仕事体験」

普段は入れない
ヘリポートで
記念撮影!

8月20日(土)の夏休み期間中に福井市内の小学生を対象に福井赤十字で「夏休み!赤十字お仕事体験」を開催し、小学生の親子34人が参加しました。

本イベントでは、はじめに赤十字のしくみを学んだ後に、2グループに分かれて医師体験、自動体外式除細動器(AED)を使用した救急法体験、普段は上がることができないヘリポートと献血バスの見学を行いました。

医師体験では、福井赤十字病院の手術室で手術着に着替えた後、外科医師や看護師の説明を受けながら、手術で使う鉗子(臓器をつかんだり、挟んだりする手術器具)などを使い、ガーゼを扱ったり、実際に医師が練習用で使用する内視鏡手術トレーニングボックスで、モニターを見ながら輪ゴムやおはじきをつかむ作業を体験しました。

参加した小学生からは「手術室や病院のヘリポートに入ったのは初めて、手術室はいろいろな機械が置いてありますかった」と話していました。

医師体験



AED体験



献血バス見学



がん患者さんの負担を軽減させる、 安心して安全な化学療法を行っています

現代のがん治療では、身体への負担を最小限に抑え、今まで通りの生活が送れることを重視した治療を目指しています。

化学療法部会

月に一度、医師、看護師、薬剤師、事務のあらゆる職種が集まり、外来や入院で行う抗がん剤治療について、科学的な根拠に基づいた治療法の検討を行っています。



中点での治療

主に通院で治療を受ける方は、中央点滴室で治療を行います。中央点滴室は、病院エスケーターをあがって右手の22番にあります。

室内には、治療を受けている間、少しでも快適に過ごせるようにテレビ付きのリクライニングシート、マッサージチェア、療養型ベッドを設置しています。患者さんのご要望や状態に合わせてベッドを選択します。その他、室内の各ベッドにはインターフォンを設置しています。治療が長時間になる患者さんもあり、室内での飲食も可能です。

専属の看護師が、外来で治療を受ける患者さんの治療や療養生活についての相談に乗り安心して外来通院治療ができるように支援しています。

外来化学療法を受けられる場合

点滴当日、化学療法を行う前に採血を行います(患者さんによってはしない場合もあります)。採血検査と診察で問題が見つからず、発熱などがなければ、化学療法を実施します。

採血… 検体検査室(2階 25番窓口)

診察… (各診療科)

点滴

中央点滴室(2階 22番窓口)



点滴当日の治療の流れ

点滴中の注意

スタッフ間で注射薬確認をしっかりと行います。点滴中に血管内から薬剤が漏れてしまうと、点滴部位がひどく腫れたり、炎症を起こす場合があります。点滴部位に痛みや熱感などの違和感を感じたり、点滴が落ちてこない時は、すぐにお知らせください。



マッサージチェア

主な副作用の症状 (点滴開始数時間～数日)

- 悪心・嘔吐
- アレルギー・発疹
- 発熱
- 食欲不振
- 倦怠感

※この他、発現時期によって症状も変わってきます。

副作用について

使用された薬が腫瘍細胞に作用する一方で、一部の正常な細胞も壊してしまうことがあり、これにより副作用が現れることがあります。すべての人に副作用が出るとは限らず、患者さんの状態によっても個人差があります。

外来化学療法年間件数の推移



また左記は、外来化学療法が開設された平成16年から同22年までの受付件数の推移です。7年の間で、なんと3倍以上も患者さんが外来化学療法に取り組まれています。やはり患者さんへの負担軽減がその数値に表れているといつていいでしょう。

栄養課
おすすめ!

秋のレシピ 〈鮭のミルク煮〉

作り方

- ① 鮭を一口大に切り、塩・コショウ・小麦粉をまぶしておく。
- ② しめじはほぐし、玉ねぎは5mm幅程度に切る。
- ③ 鍋にバターを熱して鮭、白ワインを入れて蒸し焼きにし、一旦取り出す。
- ④ 玉ねぎ、鮭、しめじをしんなりするまで炒める。
- ⑤ 鍋に牛乳・コンソメを入れて弱火で煮る。
- ⑥ 塩・コショウで味をととのえて出来上がり。



材料

●2人分

鮭切り身 2切
玉ねぎ 1個(200g)
しめじ 1パック
牛乳 200ml
小麦粉 20g
塩・コショウ 適量
バター 20g
固形コンソメ 1/2個
白ワイン 少々

エネルギー

●1人分

エネルギー 326kcal
たんぱく質 23.0g
脂質 15.5g
炭水化物 22.6g
カルシウム 134mg
ビタミンD 27.2μg
塩分 1.3g

栄養ポイントはココ!

鮭は秋に豊富に獲れる魚のひとつで、良質なたんぱく質、ビタミンD、血液をサラサラにするDHA、EPA、抗酸化作用のあるアスタキサンチン(赤色の色素)を含んでいます。中でもビタミンDはカルシウムの吸収を助けてくれる栄養素ですので、カルシウムを多く含む食品と一緒に食べるのがおすすめです。また、しめじなどきのこ類にもビタミンDが豊富に含まれているので、併せて食べるとよいです。

今回の表紙

今月の表紙を飾った理学療法士が普段勤務している病棟は、在宅復帰支援病棟「さいぎ」と呼ばれている入院病棟です。「さいぎ」とは、再起(再び起きあがる)・再帰(再び帰る)・再喜(再び喜ぶ)をなどいくつかの意味があります。

医師、看護師、リハビリスタッフ(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)などさまざまな職種で連携をとりながら、患者さんの社会復帰を支援しています。

患者さんが病いから起き上がり、喜びをもって自宅や地域社会へと帰ることができるようになっていきたいと思っています。



福井赤十字病院

〒918-8501
福井県福井市月見2丁目4番1号
TEL.0776-36-3630(代)
FAX.0776-36-4133
E-mail
webmaster@fukui-med.jrc.or.jp
<http://www.fukui-med.jrc.or.jp/>
広報に関するご意見、ご感想をお待ちしています。

ほやほや

“ほやほや”と納得できる情報、できたて“ほやほや”の情報をみなさまに提供していく季刊発行の院内情報誌です。院内の広報委員のスタッフ皆で毎回その季節に合った特集を組み、お役に立てる情報を掲載すべく病院各部門のスタッフそれぞれから原稿を集め誌面を制作しています。